

# 期

三年 画数 12  
筆順 廿 廿 其 期  
クン オン キ・ゴ

成り立ち



「婦(もと)のところにかえる」の「其」と、「月」を組み合わせて作った字です。まんまるい月も、日ごとにかけて形がかわりますが、三十日たつとまた元の形にかえります。このように、「月」が「元」の形にかえること、「つまり、「ある時から一まわりして元のところにかえるまでの間」のことをあらわした字です。【例】周期、期間。

「時をくぎる」いみにつかうこともあります。【例】学期、二学期、三学期、前期、後期。

「前もってきめておく時」といういみにもつかわれます。【例】期限、期日。

また、「あてにする」といういみにもつかわれます。【例】期待、予期。

▽お月さまは、三十日を周期にしてまるくなったり、かけたりしています。

▽二年生の二学期に、半月ほどの期間、びょうきで学校を休んだことがあります。

▽期待どおり、期日いぜんにかんせいさせます。

▽周期(一まわりして元のところまでかえる間のことをいいます。周は「一まわりする」こと。)

▽学期(学校では一年を三つの期間に分け、これを、一学期、二学期、三学期といいます。)

▽期間(ある時期からある時期までの間。「時間」ということばにたいし、日や月や年にわたる「長い時の間」をいうことばです。)

▽時期(「時」。「いよいよぼくたちのかつやくする時期が来た」というふうにつかいます。)

▽期日(〇年〇月〇日ときめられた日のことです。)

▽期待(あてにして待つこと。しゅうらいのことについて、「きつとそうなるにちがいない」と心にきめてそうなるのを待っていること。)

使ひ方

熟語例

▽お客さまがいらつしやつたので、客間にお通しした。  
▽ぼくは、おとうさんと野球の試合を見にいきました。  
▽テレビでは何度も見たことがあります、観客席から試合を見たのは、はじめてです。

使ひ方

熟語例

▽来客(ほうもんして来た客。「来客中だから、静かにしなさい」などというふうにつかいます。)  
▽客間(来客を通して、接待するための部屋)  
▽珍客(珍しい客。めつたにこない客)  
▽先客(先に来ている客。「先客があつたとは知りませんで、しつれいしました」など、つかいます。)  
▽剣客(「けんきやく」とも読みます。剣術が強い人のことです。「宮本武蔵は有名な剣客だ」というふうにつかいます。)  
▽論客(「ろんきやく」とも読みます。議論に強く、また、議論を好む人のことです。)  
▽客観(自分が見るのとは別に、それとはなれて独立して、存在するもののことを言います。「客観的」といえば、自分の立場からはなれて見ることです。)

# 客

三年 画数 9  
筆順 六 夕 交 客  
クン オン キヤク・カク

成り立ち



さかを下りて行く下むきの足の形をあらわした「夕」と、すべりどめの石の形をあらわした「口」とが組み合わせられて作られた「各(4年4画)」には、「高いところから下りて行く」いみがあります。家のいみの「宀」と「各」とを組み合わせて作った字で、「高いところから」と「各」をあらわしたものです。「みぶんの高い人のおとずれ」のいみです。

「その道にすぐれた人」のいみにもつかいます。【例】客、論客。

また、「自分のことでない」「よそごと」のいみにもつかいます。【例】客観、客体。

〔キヤクは呉音、カクは漢音〕